
平成20年1月期
決算参考資料

平成20年3月5日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社**サガミ**チェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	_____	P2
2. 平成20年1月期業績の概況	_____	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	_____	P3
4. 店舗展開の状況	_____	P3
5. 平成20年1月期業績の背景	_____	P4
6. 平成21年1月期の業績予想	_____	P4
7. 役員の変動及び組織変更について	_____	P5
8. 追補	_____	P5

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は連結子会社4社と持分法適用関連会社1社となっております。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金（千円）	事業の内容	議決権の所有 割合（％）
株式会社ディー・ディー・ エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店店舗への材料 提供及び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命 保険の代理業務	100.0 (75.0)
株式会社エー・エス・サガ ミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4 (16.4)

[持分法適用関連会社]

株式会社浜木綿	名古屋市昭和区	284,160	飲食店の経営	23.1
---------	---------	---------	--------	------

※議決権所有割合の（ ）書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成20年1月期業績の概況

○連結ベースの経営成績

○単独ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成19年 1月期	平成20年 1月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成19年 1月期	平成20年 1月期	前年比 (%)
売上高	26,241	26,460	0.8	売上高	23,535	23,701	0.7
営業利益	582	396	△32.0	営業利益	427	282	△34.0
経常利益	637	469	△26.4	経常利益	469	331	△29.4
当期純利益	303	△157	-	当期純利益	250	△155	-
一株あたり 当期純利益	12.43	△6.45	-	一株あたり 当期純利益	10.26	△6.38	-

○配当について

通期一株あたり15円の配当を据え置くことになりました。

○株主優遇策について

平成20年1月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当（通期換算 3万円）の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成19年 1月期	平成20年 1月期
総資産	21,541	20,799
純資産	15,926	15,072
自己資本比率	73.9	72.4
一株あたり純資産	652.30	616.92

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成19年 1月期	平成20年 1月期
営業活動によるキャッシュフロー	1,382	974
投資活動によるキャッシュフロー	△726	△1,028
財務活動によるキャッシュフロー	△627	△469
現金及び現金同等物 期末残高	4,578	4,058

○設備投資について

連結設備投資は 8億12百万円 (H19.1実績 6億09百万円) となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 5億67百万円 (H19.1実績 5億61百万円) となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成19年1月期	平成20年1月期			平成21年1月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	176	—	4	172	1	5	168
どんどん庵	80	5	—	85	5	—	90
じゅうはち家	4	—	2	2	—	2	—
あいそ家	4	—	—	4	3	1	6
さがみ庭	3	—	—	3	1	—	4
あんかけスパDONDONあん	5	—	1	4	—	—	4
上海盛賀美	3	1	—	4	2	1	5
その他	—	1	—	1	1	—	2
合計	275	7	7	275	13	9	279

○平成20年1月期の店舗展開の状況について

業態変更等のリモデルを含む新規出店は「どんどん庵 5店」「上海盛賀美 1店」「ベーカリーショップ Bon Pana 1店」の 7店 (うち純新店数 6店) となりました。一方、閉店につきましては「サガミ 4店」「その他 3店」の合計 7店 (うち純閉店数 6店) となりました。

また、店舗の建て替えに伴う開店は「サガミ 1店」「どんどん庵 1店」を実施いたしました。これにより期末の店舗数は 275店となりました。

○平成21年1月期の店舗展開の計画について

業態変更等のリモデルを含む新規出店は「サガミ 1店」「どんどん庵 5店」「あいそ家 3店」「その他業態 4店」の合計 13店 (うち純新店数 9店) を計画しております。一方、閉店につきましては「サガミ 5店」「その他業態 4店」の合計 9店 (うち純閉店数 5店) を計画しております。

これにより平成21年1月期末の店舗数は 279店を計画しております。

5. 平成20年1月期業績の背景

- (1) 平成20年1月期は増収減益となりました。売上高は二期連続の増収。営業利益、経常利益につきましては二期ぶりの減益となりました。なお、当期純利益につきましては三期ぶりの減益、純損失の計上は二期ぶりであります。
- (2) 当社、主力業態であります和食麺類店「サガミ」につきましては、折込広告の販売促進を前年に比べ一回多く実施した事に加え、年末年始の売上高が堅調に推移し、既存店売上高前年比は0.6%増となりました。また、子会社ディー・ディー・エーが展開するセルフサービス方式「どんどん庵」の既存店売上高におきましても前年比1.7%増と堅調に推移いたしました。
- これにより、通期の売上高は前年同期比較2億18百万円増収の264億60百万円となりました。なお、平成19年8月に発表いたしました修正予想（以下 修正予想）に対して10百万円の増収となり、概ね計画通りの推移となりました。
- (3) 売上原価率は30.1%と前年同期比較0.1ポイント増加しております。これは小麦粉や天ぷら油等の値上がりによるものであります。
- (4) 販管費は前年同期比較3億20百万円増加の181億円となりました。これは、販売促進を前年に比べ一回多く実施した事により広告宣伝費が90百万円増加した事や、平均時給の上昇や派遣社員の増加等により人件費が2億02百万円増加したためであります。
- なお、修正予想の販管費178億50百万円に対し、2億55百万円の増加となりました。
- (5) 売上高は前年比較で増加したものの、先述の理由による販管費の増加部分を吸収するには至らず、営業利益は前年同期比較1億86百万円減益の3億96百万円、経常利益は前年同期比較1億68百万円減益の4億69百万円となりました。
- なお、修正予想に対しては営業利益2億78百万円、経常利益2億60百万円の減益となりました。
- (6) 特別利益につきましては「投資有価証券売却益」等により3億42百万円。特別損失は「減損損失」「固定資産除却損」「役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給」等により8億78百万円、それぞれ計上いたしました。これにより当期純利益は前年同期比較4億60百万円減益の1億57百万円の損失となりました。
- (7) サガミ単独の既存店推移は客数が前年比0.1%、客単価が前年比0.7%とそれぞれ増加いたしました。これにより現金売上高は0.6%増となりました。

6. 平成21年1月期の業績予想

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	中間期	通期	前年比 (%)
売上高	12,878	26,800	1.3
営業利益	0	605	52.7
経常利益	15	630	34.3
当期純利益	△240	50	—
一株あたり 当期純利益	△9.84	2.05	—

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	中間期	通期	前年比 (%)
売上高	11,430	23,950	1.0
営業利益	△75	495	75.4
経常利益	△65	510	53.9
当期純利益	△260	0	—
一株あたり 当期純利益	△10.65	0.00	—

○連結ベースの業績予想について

- (1) 通期の既存店売上高は前年比「サガミ1.3%増」「どんどん庵±0%」をそれぞれ見込んでおります。売上原価率は前年比較0.2ポイント増の30.3%、販管費は前年並みの180億75百万円を計画しております。
- (2) 特別利益につきましては前期3億42百万円の計上に対し、今期の計上予定はありません。特別損失につきましては、前期8億78百万円の計上に対し、固定資産の除却損1億80百万円、減損損失89百万円を含む2億70百万円を計画しております。

7. 役員の変動及び組織変更について

○新任取締役候補について

日付	氏名	新職位	旧職位
平成20年4月17日付	鎌田 敏行 (カマダ トシキ)	取締役業務改革推進室長	管理本部長

○組織変更について

平成20年3月5日付で代表取締役直属の業務改革推進室を設置いたします。

8. 追補

○その他開示書類について

本日付で「投資単位の引き下げに関する考え方及び方針等について」「商品価格改定に関するお知らせ」を開示いたしました。

○中期計画とその進捗状況について

当社は平成18年1月期から三年間に亘り、「次世代に向けた経営基盤の強化」をテーマに売上高278億円、経常利益12億円を数値目標とする中期計画を推進してまいりました。本日の決算発表の通り、数値目標を達成するには至らなかったものの、減損会計の早期適用、不採算店の整理、取締役の若返り、政策の大転換等を果たし、新しい戦略に転換する準備が概ね整ったと判断しております。

そこで、平成23年1月期を最終年度とする新中期計画を策定。平成19年8月に発表いたしました。これは、「新たな成長ステージの構築（スピードとチャレンジ）」をテーマに「①既存店の再生」「②コストコントロール」「③人材育成」「④サガミブランドの向上」の四つの政策を推進。平成23年1月期に売上高291億円、経常利益15億円を目指す計画であります。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。